

研究区分	教員特別研究推進 国際共同研究・国際交流の推進
------	-------------------------

研究テーマ	ベトナム産プロポリスの有効利用を目指した成分分析と機能性評価				
研究組織	代表者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	熊澤 茂則
	研究分担者	所属・職名	食品栄養科学部・助教	氏名	本田 千尋
		所属・職名	Quy Nhon University・Lecturer	氏名	Diep Thi Lan Phuong
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	熊澤 茂則

講演題目	ベトナム産プロポリスの成分分析と機能性評価
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>1. 研究の目的</p> <p>プロポリスとは、ミツバチが自分の巣の周辺の植物の滲出物などを集めて作った樹脂状物質であり、ハチミツ生産における養蜂の副産物でもある。プロポリスは世界各地で民間伝承薬として利用されてきたが、その成分は原料となる植物（起源植物）によって異なる。ベトナムでもプロポリスは採集されるが、ほとんど研究されておらず、構成成分や生理機能などは解明されていない。そこで今回、ベトナム産プロポリスの成分分析および生理機能を調べることにより、ベトナム産プロポリスの有効性を明らかにすることを目的とした。</p> <p>2. 研究成果</p> <p>(1) 抗酸化活性およびモノアミン酸化酵素阻害活性</p> <p>ベトナムより入手したビンディン省とジアライ省産の4種のプロポリスに関して、DPPH ラジカル消去を利用した抗酸化活性およびモノアミン酸化酵素（MAO）阻害活性による機能性を評価した。その結果、入手したベトナム産プロポリスの中に顕著な活性を有する試料を見出すことができた。</p> <p>(2) ベトナム産プロポリスの成分研究</p> <p>入手した4種のプロポリスを HPLC による分析を行ったところ、それぞれ異なったパターンを示したことから、各プロポリスは異なる起源植物に由来することが推定された。また、その中から一つのプロポリス試料を選別し、成分研究を進めたところ、プレニルフラボノイドを含有することが示唆された。</p> <p>3. 今後の展望</p> <p>さらなる詳細な成分研究を進め、その結果からベトナム産プロポリスの起源植物を明らかにする。また、抗酸化活性や MAO 阻害活性以外の機能性評価研究を幅広く進めることにより、ベトナム産プロポリスの利用価値を見出すことを目指す。</p>